

平成26年度 がん対策関連事業取組状況(がん診療連携拠点病院における取組)

分野別 施策項目	青森県立中央病院	弘前大学医学部付属病院	八戸市立病院	三沢市立三沢病院	十和田市立病院	むつ総合病院
がんの 一次予防	<p>(1)生活習慣の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○禁煙外来及びメタボリックシンドローム外来の開設。</li> <li>○市町村や企業からの依頼に基づき、メディコトリムを実施。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民の求めに応じ、当院職員が出向いて「出前講座」を実施。(健康づくりに関する普及・啓発、がんにかんする教育・普及啓発のメニュー)</li> <li>○住民に向けて当院施設等の紹介及び医療に関する啓発活動を行う「病院まつり」を実施し、がんや生活習慣病などの早期発見・予防に関する普及啓発、検診率向上、相談支援及び情報提供などを含めた取り組みを行っている。(早期発見検診コーナー、がん相談コーナー、お薬・禁煙相談コーナーを設置し、検診センター・がん相談支援センター・地域医療連携室・市健康福祉部・薬剤師会などと協働して行う)</li> <li>○受動喫煙防止対策として院内・敷地内を全面禁煙とし、看板やホームページなどで周知。禁煙外来を開設。</li> <li>○食(栄養)と運動の大切さを再認識していただくために、院内の回廊を活用した院内散歩道を設定。(廊下には糖尿病や食生活改善等に関する掲示・展示物があり、ウォーキングを楽しみながら健康教養が身に着くようなコースとなっている。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○禁煙外来の実施</li> <li>○外来フロアでの健康ミニ教育</li> </ul>
(2)感染に 起因するがん の予防		<ul style="list-style-type: none"> <li>○肝疾患相談センターとして、肝炎に関する相談やポスターの掲示等を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○患者の目につきやすい場所に肝炎に関するポスターを掲示。</li> </ul>		同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肝炎に関する相談支援</li> <li>○院内掲示等の実施</li> </ul>
検診受診率 等の向上	<p>(1)がん検診受診率、精密検査受診率の向上</p> <p>(2)がん検診の精度管理と質の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子宮がん検診に加え、経膈超音波検査による卵巣がん検診を実施。</li> <li>○子宮内膜細胞診の従来法と液状検体法の比較を全国に先駆けて行っている。</li> <li>○青森県健診センターと共に、前立腺がん検診受診率向上をめざしている。</li> <li>○精度監視委員会を毎年行い、青森県前立腺がん研究会で県全体での前立腺がん死撲滅をめざしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健診の結果、要精検となった患者の診察予約の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○H26年3月からPET-CT検査開始に向け、H27.2.6(金)にPET-CT検査に係る市民公開講座を開催する予定。</li> </ul>	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民公開講座の実施</li> <li>○院内掲示物等の実施</li> </ul>
がん医療 の充実	<p>(1)手術療法、放射線療法、及び化学療法を単独で行う治療や集学的治療の実施可能な体制整備</p> <p>○がんに関し、内科、外科や放射線科などの診療科の枠を超えて、共同で専門的なチーム医療を実施するため、がん診療センターを開設。</p> <p>○診療科の枠を超えて、カンファレンスを開催。(耳鼻咽喉・頭頸部外科+腫瘍放射線科、消化器内科+消化器外科等)</p> <p>○化学療法においては、治療の標準化、予測される有害事象の回避あるいは軽減、そして医療ミスや事故の防止のために、レジメン登録を行っている。</p> <p>○外来における化学療法を実施するため、30床の外来治療センターを開設し、専従の看護師等を配置。</p> <p>○NSTやRSTなど多職種をメンバーとしたチーム医療を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肺がん・頭頸部がん・食道がん・婦人科がん・小児がん・肝胆膵がんのカンファレンスを開催し、症例毎に集学的治療の方針を検討・決定。本年度早期より、がん化学療法レジメン少委員会くを随時開催しレジメンを審査。</li> <li>○がん患者の病態に応じた各種治療(手術、放射線治療、化学療法)及び集学的治療。</li> <li>○外科・内科カンファレンスを実施し治療方法について複強科で検討。</li> <li>○がん化学療法レジメン少委員会くを随時開催しレジメンを審査。</li> <li>○医科歯科連携による、がん患者の周術期口腔ケアについて継続的に取り組んでいる。</li> <li>○ダビンチを用いた前立腺がん手術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国に多いがん及び我が国に多いがん以外の各医療機関が専門とするがんについて、集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんの病態に応じて、手術療法、放射線療法及び化学療法を単独で行う治療や集学的治療及び緩和ケアを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会の設置</li> <li>○チーム医療の実施</li> </ul>	

平成26年度 がん対策関連事業取組状況(がん診療連携拠点病院における取組)

分野別 施策項目	青森県立中央病院	弘前大学医学部付属病院	八戸市立病院	三沢市立三沢病院	十和田市立病院	むつ総合病院
(2)放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門的に行う医療従事者の育成	<p>○計画的にコメディカルを育成している。</p> <p>26.2現在の専門的なコメディカル 看護師:認定看護師10名(緩和ケア4名、化学療法4名、乳がん1名、放射線療法1名) リンパ浮腫療法士:3名 薬剤師:緩和薬物療法認定薬剤師1名 リハビリテーション技師:がんのリハビリテーションワークショップ修了者5名 放射線技師:1種放射線取扱主任者3名、放射線管理士2名、放射線機器管理士2名、放射線治療品質管理士3名、医療画像情報精度管理士2名、放射線治療専門放射線技師3名 臨床検査技師:緊急臨床検査士2名、2級臨床検査士4名、超音波検査士9名 病理部:細部検査士5名</p>	<p>○本年度より、放射線科を含む、がん薬物療法を扱う各科診療科が一同に会するがん化学療法委員会の毎月定例開催を実現した。プロトコール診査のみならず、より充実したがん医療に向けての現場整備を円滑に行えるようになった。がん薬物療法専門医2名、うち1名が指導医であり、研修施設基準を満たしている。また、がん化学療法室には、がん化学療法認定看護師及び認定薬剤師が専従配置され充実を図っている。外来科学療法者数は月400名を超えているものの、人員が充足しておらず今後の問題である。</p> <p>○各臓器別に病理医、放射線科医を含んだカンファレンスが開催され、最新のEBMに基づいた治療が提供されている。</p> <p>○臨床試験支援センターが立ち上がり、全国規模の薬物療法臨床試験及び治験を行っている。</p> <p>○日本がん治療認定医機構の認定研修施設を始め、各種学会の専門研修施設・認定施設であり、専門医を育成している。</p> <p>○放射線治療外来に、昨年度より配置された放射線治療認定看護師が機能し、治療開始時の患者への説明、放射線治療中の患者へのサポートなど、患者サービスが大幅に充実された。</p> <p>○前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂・尿管癌に対する術前薬物治療による治療成績の向上</p> <p>○日本頭頸部外科学会認定、頭頸部がん専門医研修施設として、頭頸部がん専門医の育成を目指している。</p>	<p>○がん診療のための研修医完成講座の開催</p> <p>○がんに関する講演会の開催</p> <p>○がん化学療法認定看護師と認定薬剤師を専従で配置している</p> <p>○認定看護師によるがん化学療法の勉強会を開催</p>		<p>○各種研修会等を通じて地域の医療従事者の育成と支援を実施。</p> <p>○各種医療チームを設置し、各職種の専門性を活かした多職種によるチーム医療を行っている(緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、栄養・口腔・嚥下リハビリチームなど)。</p>	<p>○認定看護師の育成</p> <p>○緩和ケア研修会の実施</p> <p>○勉強会の実施</p>
(3)がんと診断された時からの緩和ケアの推進	<p>○入院時より、痛み及び痛みによる日常生活への障害について、毎日聞き取り調査を実施し、評価。</p> <p>○主治医の依頼に基づき、組織横断的に緩和ケアチームが活動。</p> <p>○外来患者を対象とした、痛みの看護外来を開催している。また、緩和医療科を受診した患者等を対象としたホットラインを開設。</p> <p>○緩和ケアチームの専従看護師が外来をラウンドし、痛みのある患者に対応。</p> <p>○緩和ケア研修会を年1回開催。</p>	<p>○腫瘍センター内に緩和ケア診療室を設置。緩和ケアチームとして、入院・外来患者を対象に各診療科主治医の依頼に応じて直接介入の緩和ケアを実施。</p> <p>○「緩和ケア公開講座」を開催。緩和ケアチーム主催で3ヶ月ごとに地域内医療職を対象とし、早期から質の高い緩和ケアを提供出来るように勉強会を開催。</p> <p>○「緩和ケア研修会」を開催。がん診療連携拠点病院として、毎年度、青森県内でがん診療に携わる医療従事者を対象とし、緩和ケアについての基本的な知識を習得する機会を提供している。今年度は、9月14～15日に開催予定。</p> <p>○弘前大学において、21世紀教育(教養科目)や医学部系統講義、大学院医学研究科での講義で早期からの緩和ケアの重要性を教授。</p>	<p>○緩和ケアの実施</p> <p>○緩和ケアチームを整備</p> <p>○病院から在宅(又は施設)への切れ目のない緩和ケアの提供を目指す。</p> <p>○在宅医へのバックアップとして、①緊急入院への対応②在宅医と緩和ケア医師との合同往診による、緩和ケアの専門的症例についての指導と治療③個別の症例によるオンジョブトレーニング、等を行っている。</p> <p>○がん診療に携わる医療従事者を対象とした緩和ケア研修会や緩和ケアに関する講演会などを開催</p> <p>○緩和ケアパスの運用</p> <p>○緩和ケアマップの作成予定</p>	<p>○緩和ケアチームを整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置づけるとともに、がん患者に対し適切な緩和ケアを提供。</p> <p>○緩和ケア研修会の開催 H26.10.12日(日)・13日(月)に開催予定。</p> <p>○今年度、緩和ケア認定看護師育成のため、看護師1名を教育機関に派遣</p> <p>○がん診療連携拠点病院として、退院支援・在宅療養支援に関する専門的な知識と効果的な指導方法について理解を深め、がん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する能力を高める人材育成のため、国立がんセンターが主催する「平成26年度がん患者の退院支援・在宅療養支援コース」を受講する予定である。</p>	<p>○がんと診断された時から患者や家族の状況に応じ、身体的な苦痛だけでなく、精神心理的な苦痛に対する心のケア等を含めた全人的な緩和ケアの提供に取り組んでいる。</p> <p>また、地域の多職種(訪問看護師、薬剤師、ケアマネ等)との連携による緩和ケア支援ネットワークを構築し、在宅緩和ケアの提供を行っている。</p> <p>地域住民及び医療福祉従事者等に対し、緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性を講演会・研修会等を通じて普及啓発を行っている(緩和ケア研修会・緩和ケアセミナー等)。</p>	<p>○緩和ケアチーム活動</p> <p>○緩和ケアチームによる他施設での研修会の実施</p> <p>○緩和ケア研修会の実施</p> <p>○院内掲示等による緩和ケアチーム活動の周知。</p>

平成26年度 がん対策関連事業取組状況(がん診療連携拠点病院における取組)

分野別 施策項目	青森県立中央病院	弘前大学医学部付属病院	八戸市立病院	三沢市立三沢病院	十和田市立病院	むつ総合病院
(4)地域連携、支援を通じたがん診療水準の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5大がんの地域連携パスの運用を推進。</li> <li>○緊急緩和ケア病床を確保し、地域で対応困難な患者の症状のコントロールを行う予定。</li> <li>○在宅緩和ケアマップを作成し、定期的に更新する予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんの地域連携パスの活用と検証・呼吸器内科では、同地区の他の肺がん診療施設と積極的に交流し、お互いの情報共有を通して地域としての診療水準の向上を図っている。</li> <li>○産婦人科では、県内の子宮頸部異型成患者の経過観察期間を青森臨床産婦人科医会がん対策委員会を中心として統一化。</li> <li>○消化器外科では、自治体病院を主体とする県内医療機関との間に専門回線を敷き、がん診療水準の向上のためのコンサルテーションサービスを24時間体制で行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県作成のがん診療連携パスの運用を行っている</li> <li>○がんセンターボード、死亡症例検討会(CPC)、NST学習会等、各種研修会を定期的に開催し、地域の医療機関にも案内している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成24年度から運用されている青森県がん地域連携パスに積極的に参加している。しかしながら、現時点でのパス適応患者数は大腸がん2件にとどまっている。</li> <li>○在宅ケアセンターを院内に設置し、訪問診療を実施しながら、在宅療養への支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん地域連携パスの活用や地域がん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に取り組んでいる。</li> <li>○在宅医療については、地域の多職種(訪問看護師、薬剤師、ケアマネ等)と連携し、看取りを伴う在宅医療の提供を行うとともに、在宅医療研修会を開催している(在宅緩和ケア・リンパ浮腫・リハビリ・嚥下・口腔ケア・薬剤師研修会)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん医療連携パスの実施</li> <li>○勉強会の実施</li> <li>○緩和ケアチームによる他施設での研修会の実施</li> </ul>
情報提供と相談機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療連携部のがん相談支援センターを開設し、がん患者の相談支援に関する窓口を一元化。</li> <li>○がん相談員の計画的な人材育成を図る予定。</li> <li>○がんサロンを7月より定期的に開催することとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○院内にがんサロンを開設し、以下の事業を行っている。</li> <li>○がん相談員による不安や心配事などの相談対応等及び安心して語らうことのできる「場」を提供。</li> <li>○がんの治療、療養に関連した情報収集のための情報誌や参考図書、閲覧用パソコンの設置の他、がん関連のイベント等のポスター提示により、広く情報提供。</li> <li>○患者会との連携及び毛髪技能士やピアサポーターによる副作用対策の支援等により、療養上の不安の軽減に努めている。</li> <li>○セカンドオピニオン外来の相談窓口となりセカンドオピニオンを支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種がんに関する小冊子の無料配布</li> <li>○がん相談室内でのがん関連書籍の閲覧</li> <li>○がん患者及び家族によるタオル帽子の会を開催</li> <li>○ウィッグに関する情報提供</li> <li>○がん相談支援センターに、研修を修了した相談員を配置</li> <li>○セカンドオピニオンの相談窓口をがん相談支援センター内に設置</li> <li>○乳房切除した患者の補正下着の相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域医療連携室内にがん相談・医療福祉相談室を併設しており、専従のがん相談員を配置し、情報収集及び情報提供を行っている。</li> <li>○乳がんのがん患者団体である「ひまわりの会」に対し、情報提供を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○院内の各外来・病棟・待合ホールに各種がんの小冊子や、がん相談支援センター紹介リーフレットを設置・配布している。また、がん相談支援センターにパソコンを設置し、国又は県のがん情報サイト「がん情報サービス」を活用した情報提供に取り組んでいる。</li> <li>○がん患者フォーラムにおいて、がん相談員とがん患者団体と協働で情報提供・相談支援等に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん相談の実施</li> <li>○院内掲示物等の患者会との連携</li> </ul>
がんの教育・普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん診療センターとして、年1回けんみん公開講座を開催。また、各診療科においてもけんみん公開講座を随時開催。</li> <li>○がんネットやがんセンターボード講演会を開催し、他施設からの受講者を受け入れている。</li> <li>○緩和ケア研修会や緩和ケア勉強会を開催し、緩和ケアの普及及び質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当院のがん専門領域の医療スタッフによる、患者・一般の方を対象としたミニ勉強会を開催。(テーマ:がんの3大治療について、抗がん剤の副作用について、療養中の食事について等)</li> <li>○一般市民を対象とした市民公開講座を開催し、がん治療に関する教育・普及啓発を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅医療に関する市民公開講座の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域連携医務室において、がん患者に対し、提供用小冊子を配布。</li> <li>○H27年3月からPET-CT検査開始に向け、H27.2.6(金)にPET-CTに係る市民公開講座を開催する予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1(1)の取り組みと同じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民公開講座の実施</li> <li>○院内掲示物等の実施</li> </ul>
がん登録の充実と研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専従のがん登録実務者を3名配置し、院内がん登録及び地域がん登録を実施。</li> <li>○厚生労働科学研究の研究フィールドである。また、治験や他施設における臨床研修に協力。</li> <li>○職員を対象として、臨床研究費の助成をしている。その報告会を年度末に開催。</li> <li>○院内がん登録の報告書を作成し、院内LANで公表。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青森県内で新規に院内がん登録立ち上げを計画している医療機関について、必要な物品の紹介やスキルについての講習を行う。これによって、県内の院内がん登録実施医療機関数の増加が見込まれる。</li> <li>○青森県がん登録室と連携し、平成23年死亡症例に関するフォローバック(遡り)調査に対応できない医療機関に対して出張採録を実施する。これによって青森県がん登録におけるDCO割合の低下が見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○院内がん登録の実施</li> <li>○院内がん登録実務者研修会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常勤職員を配置し、健康局総務課長が定める「標準登録様式」に基づく院内がん登録を実施。</li> <li>また、毎年、院内がん登録の集計結果等ががん対策情報センターに情報提供。</li> <li>※初級修了者2名、中級修了者1名、今年度、新たに1名、初級を受講する予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん対策情報センターによる研修を修了した専従のがん登録実務者が院内がん登録・地域がん登録等を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん登録の実施</li> </ul>

平成26年度 がん対策関連事業取組状況(がん診療連携拠点病院における取組)

分野別 施策項目	青森県立中央病院	弘前大学医学部付属病院	八戸市立病院	三沢市立三沢病院	十和田市立病院	むつ総合病院
小児がん		<p>○当院の小児外科は、県内唯一の小児がん外科治療実施病院として他医療機関と連携。</p> <p>○がんサロン内に小児がんに関する冊子やパンフレット、絵本を準備し、親子で病気を理解できる環境を提供。</p> <p>○白血病および悪性固形腫瘍を含むすべての小児がんの診療を行っている。患者は、青森県全域のみならず、秋田、岩手県の県北地域からも集まる。</p> <p>○小児がんは比較的まれな疾患であるため、より良い治療法を開発するためには、多施設が協力して臨床試験を行う必要がある。当科は日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)に所属し、白血病、悪性リンパ腫等の造血器腫瘍の臨床試験に参加することにより、最先端の治療を行っている。また、神経芽細胞腫、ウイルス腫瘍、肝芽腫、脳腫瘍等の固形腫瘍に関わる疾患ごとの全国規模の臨床試験に参加し、治療にあっている(日本神経芽腫研究グループ(JNBSG)、日本ウイルス腫瘍スタディグループ(JWiTS)、日本横紋筋肉腫研究グループ(JRSG)、日本小児肝癌スタディグループ(JPLT)、日本脳腫瘍コンソーシアム等)。</p> <p>○JPLSGの中心メンバーとして、臨床試験の立案や遂行にも積極的に参加し、特にDown症のTAMや白血病の中央診断施設として、全国から送られてくる臨床検体の分子診断にも貢献している。</p> <p>○化学療法のみで治癒の可能性が低い場合は、白血病を中心に積極的に同種の造血幹細胞移植を行っている。当院は、小児科領域では県内唯一の日本骨髄移植財団骨髄移植・採取認定施設、日本さい帯血バンク登録施設である。特に、臍帯血移植の経験数は小児科領域では日本トップクラスである。</p> <p>○青森県小児がん等がん調査事業を10年以上実施し、青森県内で発症するデータを高い精度で収集している。</p>	○小児がんに関する冊子を院内に配置			
働く世代への支援	○がん相談の中で対応している。がん相談を担当している部署に社会保険労務士がおり、連携を取っている。	○がんサロン内の掲示板にピアサポーターによる「就労ほっとコール」のポスターを掲示し、支援情報を案内している。	○がん相談員(MSW)が生活面、経済面に関する相談支援を行う ○相談員の障害年金セミナーへの参加			○勉強・研修会の実施 ○院内掲示物等の実施